

10 障害児教育

鈴尾 修司・木村 敦子
関 和典・藤村 佳令

1 研究テーマのとらえ方

(1) 養護学級の教育目標と「自立に向かう子ども」像

本学級では、「生活力のある児童」を目指している。「生活力のある児童」の姿として次の3つの力を描いている。

- ことばや行動で自己を十分に表現し、主体的に行動する力
- さまざまな集団やいろいろな人とのかかわり合いの中で、生活や学習をする力
- いろいろな場面で判断したり、工夫したり継続したりして生活や学習をする力

この3つの力を総合すると「児童がその子なりの考えをもち、よりよい方向を目指して進んで考え、判断し、表現していく（行動していく）力」であり、この力をもつ児童が「自立に向かう子ども」と考える。

(2) 「自立に向かう子ども」を育む研究の視点

自立に向かう子ども像を「児童がその子なりの考えをもち、よりよい方向を目指して、進んで考え、判断し、表現していく（行動していく）子ども」と捉え、これらの力を育てていくための研究の視点を次のように考える。

- ①自己決定する場や活動の設定
- ②学習の汎化を図る場や活動の設定
- ③社会や多様な集団での関わりの場の設定

2 研究の推進について

(1) 児童の実態把握

「自立に向かう子ども」を育てていくために、「自己決定」ということに重点をおいて研究を進めていく。児童が自己決定する場や活動を設定していくにあたっては、的確な実態把握がなされていくことが必要である。本学級では、一人一人の実態を次のように捉えて、支援の方法を考えていくものである。

児童の実態	支援の方法	
自分の日常的な生活の中でしたいこと好きなこと（物）が大まかにある。	児童の日常生活の中で一人一人の好みの傾向を捉え、活動の中に組織していく。	活動していく中で、児童が嫌いなこと、拒否しようとしていることについて明らかに把握していく。
自分の日常的な生活の中でしたいこと好きなこと（物）が確定している。		
自分の日常的な生活の中で具体的な物や活動を2者の中から選ぶ。	選択肢の内容が一人一人の理解に応じて具体的に提示する。	児童が選択しなかったことについて、児童がしたくなかった

学習や活動場面で具体的な2者の中からしたいことを選ぶ。		ほしくなかったことを言語化していく。
学習や活動場面で具体的な2者以上の中からしたいことを選ぶ。		
学習や活動をイメージして、2者以上の中からしたいことを表す。		
学習や活動をイメージして、これまでの経験の中からしたいことを表す。	これまでの経験が想起できるような手がかりを提示する。	児童がイメージしたことは、違うことも提示して、選択できるようにしていく。
自分の生活の中でこれまでの経験を生かして進んで活動していく。		

支援の方法としては、児童が自分のしたいことを自己の判断で決定できるように、選択肢を具体的に示していくようにする。それと同時に、児童がしたくないこと、嫌いなことを明確に意識していけるような支援の手だてを考えていくものである。

(2) 教育課程の見直し

- ① (1) のような児童の実態の捉えにより、従来の各教科、総合学習の活動の見直しを行う。
- ② 学習の汎化を図るため、各教科と総合学習の関連がより密接なものとなるようにしていく。
- ③ 社会や様々な集団への関わりを、児童の集団性の発達に応じて適切に図っていく。

3 まとめと今後の課題

(1) 児童のもっているイメージと自己決定

児童が「これをしたい。」「こちらの方が（自分にとって）よい。」と判断し、行動していくためには、そのことに対するイメージが明確になっていることが必要である。児童の自分の活動に対するイメージについては、前年度までの研究「豊かな感性を育む」に引き続き、どのように児童が物事を捉えていっているかを活動ごとに明らかにして、具体的な支援を考えていくことが大切である。

(2) 自己決定する場の設定

どのように児童一人一人が物事のイメージをしているかということに基づき、活動の中に自己決定する場を設定していった。そこでは、「児童が選択すること＝自己決定」ということだけでは、真に生きる力につながっていくものではないということが検討された。すなわち、児童が選択したことが次の活動につながるものであること、本質的な活動内容につながる場所での選択がなされなければならないということであった。そこで、活動を一連の流れで見ると、児童が自己決定をしていくための基になる活動、児童が自己決定をする活動といったようにポイントを絞って設定していくことが必要であると思われる。単元の活動を設定するにあたっては、以上のことが明らかになってきている。

一方、児童の生活全般については、「こういう場面で自分で決めて活動する。」といった一人一人の目標をさらに明確にし、そのことにむかっての活動が設定されていく必要があると思われる。